性器処刑され惨殺されるヒロインたち

高杉晋太郎

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。
このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】
性器処刑され惨殺されるヒロインたち

【Ｎコード】
Ｎ９２０４ＪＫ

【作者名】
高杉晋太郎

【あらすじ】
Ｒ１５で連載している作品のエピソードの１つです。捕らわれたヒロインたちが惨殺されるところでエピソードは終了します。ご了承下さい。本編を読んでくれている方は５話からの続きとなります。敵の罠にはまり捕えられたヒロインたちが性器を徹底的に拷問され惨殺されるお話になります。酷い描写が多々ありますので、苦手な方は読まないようにして下さい。

１人目のヒロイン蓬莱刹那が、空中で四肢を引き伸ばされ腰にも岩

をぶら下げられてしまった状態から物語は始まります。

主な登場人物

蓬莱刹那・・魍魎討伐者“朱姫“、夏の力を持つ。獣刀“朱雀“を愛用する。

護国八千穂・・魍魎討伐者“白姫“、秋の力を持つ。ビー玉を武器にした多彩な技を持つ。

百地柚希・・魍魎討伐者“玄姫“、冬の力を持つ。折り鶴を武器に戦う。

千餐王・・河童の王。異界の妖怪の頂点に立つ野望を持つ。

西園寺弥生・・元魍魎討伐者“青姫“、春の力を持っていた。扇子を使用した様々な技で敵を倒す。

6話　初めての性器拷問に泣き叫ぶ蓬莱刹那（前書き）

本編5話からの続きとなります。
捕えられた朱姫、白姫、玄姫が順に拷問されていきます。
酷い描写が多いので苦手な方は読まないようにして下さい。

6話　初めての性器拷問に泣き叫ぶ蓬莱刹那

6話　初めての性器拷問に泣き叫ぶ蓬莱刹那

四肢をロープで四方に引かれ空中で大の字にされている刹那の前に鉄の棒が用意される。太さ４０ミリ弱の鉄製の棒で先端は丸く滑らかに成っていた。

「弥生を何度も拷問して丁度良い太さが分かってきた　これをお前で試してみよう　」

刹那は自分の目の前に出された鉄の棒を見て、それが自分の性器に突き入れられるのだろうと予想した。弥生は性器を集中的に拷問されていた。自分も同じ事をされるのだろう。そう考え覚悟を決めているが震えてくる体は抑えられなかった。

・・・それぐらいで音をあげてたまるか　・・・

四肢を引き伸ばされる拷問に耐えながら刹那は自分を鼓舞するが、その鉄の棒は火の中に入れられ熱せられていく。刹那の見ている前で鉄の棒は真っ赤になっていった。そして、刹那の着ているセーラー服やミニスカート、下着が切り裂かれていき、刹那は太ももに食い込む黒いサイハイソックスだけの姿にされる。

「弥生さんは真っ赤に焼けた鉄パイプを膣に入れられていましたが刹那さんはあの焼けた鉄の棒を入れられるようです　鉄の棒の方が

いつまでも温度が下がらず刹那さんの膣を焼き続けるでしょう　刹那さんは膣を焼かれる激痛を長時間味わう事になります　」

　八千穂が冷静に分析しているように見えるが、その声は激しく震えていた。

「そんな事されたら刹那さん　もう二度と使えなくなっちゃうよ　」

「当然ですよ　膣を焼かれるのですよ　使える使えないの問題ではなくショック死するレベルですよ　私が拷問された時はそこ迄の事はされませんでしたが、この河童の王は女性の性器を徹底的に破壊する事に意味があると考えているようです　」

　縛られながら八千穂と柚希が小さな声で話しているうちに、火の中に入れられていた鉄の棒は真っ赤に熱せられて取り出された。そして、刹那の口に閉じられないように開口器が装着され最大まで開かれる。刹那は大きく口を開けさせられ恐怖で震えていたが、頭を掴まれ顔を上げられ口と喉が一直線になるように正面を向かされる。そして、もう一人の河童が刹那の大きく開いた股間の中心に狙いを付けていた。

「どうやら刹那さん、口腔と膣に同時に焼けた鉄の棒を突き入れられるようです　」

　震える声で言う八千穂に柚希は返事を返す事も出来なかった。柚希は目の前で行われようとしている残酷な拷問に声も出せなくなっていた。

「ククク、ヨクミテオクンダナ　ツギハオマエラダ　」

八千穂と柚希の周りを固めている河童の一人が笑いながら言う。
八千穂も柚希も、次は自分が同じ事をされるのかと思うと恐怖で震えが止まらなかった。

「あうっ、あうっ、あうっ、あうっ　」

刹那は眼前に迫る真っ赤に焼けた鉄の棒に目を大きく見開き、ガタガタと震えていた。鉄の棒が近付いてくるにつれ、その凄まじい熱気が顔に当たる。刹那は大粒の涙を流し、開いたまま閉じられない口からヨダレを垂らし泣いていた。そして……。

ズボウゥ、ズボウゥ

刹那の口と膣の両方に同時に真っ赤に焼けた鉄の棒が突き入れられた。

「ごがぁぁぁぁーーーー！！　」

プッシャァァーーーー！

刹那の尿道から小便が勢いよく噴き出した。焼けた鉄の棒は、それでもまだ刹那の口と膣に奥へ奥へと突き入れられていく。刹那は口から胃まで焼けた鉄の棒を突き入れられ、膣からは子宮の中まで鉄の棒を入れられ焼かれていた。刹那の口と膣から焼け焦げた匂いと、煙が上がっていた。刹那は小便を漏らし、白眼を剥いて気絶していたが、さらに次の拷問の準備が進められていく。鉄の棒は冷めるまで刹那に突き刺されたまま放置された。

八千穂と柚希は目の前で刹那に執行されていく拷問に漏らしてしまっていた。ミニスカートに染みが出来、足元には小便の水溜まりが出来ている。弥生が拷問される動画を視てはいたが、実際に目の

前で行われた刹那が拷問される様子を見ると臨場感がまるで違う。
実際の拷問の恐ろしさが身に染みてわかった。

「弥生さんみたいに　徹底的に刹那さんを壊すつもりのようです」

八千穂は、四つん這いの弥生の上に腰を降ろして座り、悠然と刹那の拷問を眺めている〝千餐王〟に恐ろし気に目を向けた。〝千餐王〟は弥生の上に座りながら指示を出している。そして、ようやく冷えた鉄の棒が刹那の体から抜かれ始めた。しかし、これはただ抜かれるという事ではない。焼かれた刹那の膣や喉の組織は鉄の棒に癒着してしまっている。鉄の棒を引き抜くという事は、その癒着した膣や喉が引き剥がされるという事だ。

「おがあぁぁぁぁーー」

鉄の棒が抜かれるにつれ刹那の膣や口から血が溢れだす。

ズボウゥ！

「あばぁぁぁぁーーーー！」

鉄の棒が引き抜かれ刹那が絶叫する。抜かれた鉄の棒には刹那の膣壁や喉の組織が焼き付いていた。刹那の膣と口から血が流れ出しているが、そんな事は意にも介せずシリンジが用意され中に液体が満たされる。

「刹那さん、大丈夫なの？」

「大丈夫じゃありませんよ、あんな事されて……　今度は浣腸されるみたいですが、あの中の液体が普通のものとは思えません」

八千穂が震えながら言う。八千穂の推察通り、シリンジに入れられているのはグリセリンではなかった。二人の見ている前でシリンジは刹那の肛門に突き刺される。

ヂューーー

刹那の肛門からシリンジの中身が注入されていく。

「うびゃぁぁぁーーーーーー！！」

刹那が絶叫し、八千穂と柚希は息を呑んだ。

「やはり、ただの浣腸ではないようです　刹那さんがこんなに絶叫するということは……」

「八千穂、私怖い　怖くて震えが止まらない」

「私もですよ、柚希　ただ殺されるならともかく、こんな拷問されるなんて、私も怖くてたまりません」

二人が話しているうちにシリンジ内の液体は全て刹那の中に注入し終わり、2本目のシリンジが刹那の肛門に突き刺され注入が開始されていた。

「いだいぃぃぃーー　じぬぅぅぅーーーー！！」

刹那は尿道からピュッピュッと小便を漏らしながら絶叫している。

「ただ事ではないですよ、この刹那さんの苦しみ方は……」

「な、何を入れられているの？」

柚希が不安そうな顔で呟いた時、”千餐王”が部下に指示する声が聞こえた。

「もう少し、薄くして注入しろ　すぐ死んでしまっては意味がなくなるからな　長く苦しめてから殺すのだ　ククク、塩酸で腹の中を焼かれる苦痛は相当なものだろう」

「え、塩酸……　そんな物を刹那さんは注入されているのですかいくら薄めても、もうお腹の中が溶けてしまっているのでは……」

「私、そんな事されたら耐えられないよ」

八千穂が青ざめ、柚希が恐怖に震える声で言う。刹那は肛門から3本目のシリンジで塩酸を注入されていた。ここまでされてしまっては、もう刹那は絶対に助からない。それは誰がみても明らかだった。

6話　初めての性器拷問に泣き叫ぶ蓬莱刹那（後書き）

次回、刹那が許しを乞いながら惨殺されます。
さらに酷い内容になりますので気を付けて下さい。

7話　性器を破壊され泣きながら無様に許しを乞う刹那（前書き）

今回、刹那が性器を拷問され惨殺されます。
酷い描写が多いので、苦手な方は読まないようにして下さい。

7話　性器を破壊され泣きながら無様に許しを乞う刹那

7話　性器を破壊され泣きながら無様に許しを乞う刹那

１０本目のシリンジの注入が終了したところで刹那の肛門に直径５０ミリのアナルプラグが挿入され、刹那の肛門は塩酸を注入されたまま封印された。

「あぎゃぁぁぁぁーーーー　だじげでぇぇぇぇーーーー！！」

刹那は泣き叫ぶが、次には刹那の尿道にカテーテルが挿入され膀胱まで突き入れられる。刹那の、まだ膀胱に残っていた尿がチョロチョロと排出された。

「まさかと思いますが嫌な予感がします」

「嫌な予感って？」

八千穂は怖くて口を噤(つぐ)んだが、八千穂が想像した通りの事が進行していく。刹那の尿道に挿入されたカテーテルの反対側に、浣腸で使用していたシリンジが装着される。そのシリンジの中に満たされている液体は言わずもがなだろう。

「う、嘘だよね……」

柚希が震える声で呟くが八千穂はもう声も出せなかった。そして、シリンジ内の液体が容赦なく刹那の膀胱に注入されていく。

「ひぎょぉぉぉぉーーーー！　いだいいいいーー！　じぬぅぅぅーーーー！！」

八千穂の想像通り刹那の膀胱に塩酸が注入され、刹那は泣き喚く。そこにはもう、妖怪と戦う朱姫の姿はなかった。しかし、刹那がどれ程泣き喚こうと許される事はなく2本目のシリンジから刹那の膀胱内にさらに塩酸が注入される。

「うぎょぉぉぉーーーー　だじげでぇぇぇぇーーーー！！」

刹那の膀胱内が塩酸で満たされ、カテーテルが尿道から抜かれると尿道プラグが押し込まれ刹那の尿道も封印される。そして、刹那の膣に膣鏡が挿入され最大まで開かれた。刹那の膣の奥にピンク色の子宮が確認され、またカテーテルが用意されると、子宮口から子宮内に挿入されていった。もう、八千穂も柚希も口を開けたまま声が出なかった。刹那の子宮に入れられたカテーテルにもシリンジが装着される。そして、シリンジ内の液体が刹那の子宮に注入されていく。

「あ、ぎょぉぉぉぉーーーーーー！！」

刹那の膣の奥から煙が上がり嫌な匂いが辺りに漂う。

「どうだ　薄めていない塩酸は特別だろう」

〝千餐王〟は苦しむ刹那の姿を満足そうに眺めていた。子宮内、膀胱内、腸内、全てを塩酸で焼かれている刹那はもう何も考えられず泣き叫んでいた。

「ひどい、酷いよ　あんな事されて刹那さん……」

「いえ、弥生さんの性器拷問はこの程度で終わりませんでした　刹那さんの性器もまだ拷問されると思います」

「そんな、これ以上何をするの　考えられないよ」

刹那の子宮に塩酸を注入し終わった後、刹那の小陰唇がびろーんと引き伸ばされる。

「弥生が大好きな拷問をしてやろう　弥生はこれをやられると潮を吹いて喜ぶぞ　貴様はどうかな」

〝千餐王〟の言葉に柚希は少し安心したようだった。

「よかった　次の拷問はそれほど悲惨なものではなさそうだね」

しかし、八千穂は固い顔で答える。

「いえ、柚希　弥生さんは……　おそらく次の拷問も刹那さんにとって耐え難いレベルのものですよ」

八千穂は確信した。弥生はおそらく異常性欲者なのだ。あの真面目で大人しい弥生がと信じられない思いであるが、あの下着の匂い、あれはやはり弥生が興奮して分泌した粘液の匂いなのだと思い至った。弥生は性器を拷問され興奮していたのだ。八千穂は弥生の知られざる一面に気が付き背筋が寒くなっていた。それでも、着物姿でにっこりと微笑む弥生の清楚な姿と、性器を拷問され潮を吹く弥生の異常な姿が重なり合わなかった。

・・・弥生さん、あなたはいったい　・・・

八千穂は思いに耽っている間に刹那の小陰唇がハサミで挟まれていた。

ジョキンッ！

「あっぴゃぁぁぁぁーーーーーー！！」

刹那の小陰唇が縦に切断されていた。そして、連続で刹那の小陰唇が5ミリ間隔の短冊状に切断されていく。

ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン

「あぴゃ、ぴゃ、ぴゃ、ぴゃ、あっぴゃぁぁぁぁーーーーー！！」

さらに刹那の反対側の小陰唇も摘まれ短冊状に切断されていった。

ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン、ジョキン

「あぴゃ、ぴゃ、ぴゃ、ぴゃ、あっぴゃぁぁぁぁーーーーー！！」

敏感な小陰唇をズタズタに切断され刹那は口から泡を吹いていた。

その、刹那のズタズタにされた小陰唇に、なんと大量の塩が塗り込められていく。

「あっびゃぁぁぁぁーーーーーーーー！！」

文字通りの絶叫だった。しかし、それで終わりではない。大量のニードルが用意され、まず刹那のクリトリスに突き刺される。

プツゥ

小さな音がして刹那のクリトリスにニードルが貫通した。そして、交差するように2本目のニードルがクリトリスを貫通する。それから刹那の小さく敏感な突起に１０本以上のニードルが貫通し串刺しにした。

「信じられない、あんな処にニードルを刺されたら私気絶する」

柚希が体を震わせて言うが、八千穂は弥生の事を思い出していた。

・・・そういえば弥生さんが自分のクリトリスに針を刺しているのを見た事がある　弥生さんは修行ですと顔を赤くして言っていた。その時は真面目な弥生さんだから、そこまで修行しているのかと思ったけど、考えてみれば明らかに異常だ　あれは弥生さん、もしかして自慰していた？　・・・

八千穂は弥生の本性が分かってきて怖くなってきていたが、その時自分の股間でも小便以外のものが溢れてきている感覚があった。手が動かせれば触って確認出来るのだが厳重に縛られてしまっている。

・・・嘘だよぉ　私がそんな事で興奮するわけがないよ　・・・

八千穂は首を振って頭に浮かんだ考えを追い出し違う事を考えるようにした。

・・・もう、弥生さんの事は諦めて戦った方が良いのでは　・・・

八千穂の考えは的を得ていたが、もう全てが遅かった。刹那が無事な時であれば、朱姫、白姫、玄姫の力を合わせれば“千餐王“を倒して一人くらいはここから逃げ出せただろう。しかし、刹那を欠いた今では戦力的に大きく劣ってしまう。逃げようとしても殺されてしまうのがオチだった。

刹那はクリトリスにニードルを刺す場所が無くなり、膣前庭窟にニードルを深く刺されている。もちろん、そこだけではない。大陰唇や会陰、そして、肛門にも刹那は深くニードルを刺されていた。

「ごめんなざい　もお、ゆるじで　ゆるじでぐだじゃい　」

小陰唇をズタズタにされ、性器や肛門、股間全てを針山にされて刹那は無様に許してくれと懇願していた。しかし、刹那の１０００本以上のニードルで無惨にも針山にされた性器の前に大きな棍棒を持った河童が現れる。

「やれ　」

”千餐王　”が手を振ると棍棒を持った河童は刹那の針山にされた性器に思い切り棍棒を叩き込んだ。

バキャッ！！

「おっ、ぴゃぁぁぁぁーーーーーー！！　」

絶叫する刹那の性器から激しく血が飛び散る。棍棒は休みなく刹那の性器に叩き込まれていく。

バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!

「あばぁぁぁぁーーーー　ゆるじでぇぇ　もお、ゆるじでぐだじゃいいいい　あびゃぁぁぁぁーーーーーーーー!!」

しかし、当然刹那は許される事はなく、さらに激しく性器に棍棒が叩き込まれる。

バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!バキャッ!!

「あびゃぁぁぁぁーーーーーーーー!!　だれがぁぁだじげでぇぇぇぇーーーー!!」

刹那の性器にまた塩が塗り込められた。刹那は棍棒が性器に１０回叩き込まれる度に塩を塗り込まれた。

グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!

「もお嫌だぁぁぁぁ　ごろじでぐだぢゃいいいいーーー」

刹那の性器が叩き潰され打撃音が変化する。刹那の恥骨も、もう砕かれていた。刹那はあまりにも厳しい性器への集中された拷問に、もう殺してと懇願するが、そんな懇願が聞き入れられる筈がなかった。棍棒で潰されている刹那の性器はもうグシャグシャだった。

「あひゃ……　あひゃひゃひゃひゃ　」

そして、ついに刹那は目の焦点を失い口からヨダレを垂らし、性器を叩き潰されながら笑い始めていた。

「せ、刹那さん……　頭がおかしく……　」

「無理もないです、柚希　あそこまで性器を徹底的に破壊されたら、いくら刹那さんでも……　」

それでも刹那はまだ性器に棍棒を叩き込まれていた。

グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!グシャァッ!!

「ふはは、ついに発狂したか　無様な姿だな　よし、そろそろトドメをさそう　」

〝千餐王〟の言葉で棍棒の打撃は止められ、鋭い槍が用意される。

「やれ　」

何の感情もなく冷酷に〝千餐王〟が命令する。刹那の最後の時が近付いていた。槍の切っ先は刹那のグシャグシャになった膣穴に射し込まれる。そして、一気に槍は刹那の膣から突き入れられた。それも真っ直ぐに突き刺されるのではなく、抉るように捻りながら突き刺されていく。

「おごぉぉぉぉーーーー　」

刹那の口から血と共に槍の切っ先が姿を現した。刹那は性器から口まで槍で串刺しにされ、体をビクビク痙攣させている。

「もう1本だ　」

今度は刹那の尿道からプラグが抜かれ、そこに槍が当てられる。そして、また抉るように一気に串刺しにされ、刹那の尿道は切り裂かれ膀胱も貫かれ口から2本目の槍が飛び出した。2本の槍で完全に串刺しにされ刹那はもう絶命しているのは間違いなかったが、さらに3本目の槍が用意され今度は刹那の肛門から突き入れられようとしていた。刹那の肛門からプラグが抜かれ、槍が突き刺される。もう絶命している刹那の口から3本目の槍の切っ先が姿を現した。

「ククク、まだだ　」

4本目の槍が刹那の膣と肛門の間、会陰に突き刺されズブズブと刹那の体を貫いていく。そして、刹那の口から4本目の槍が姿を現した。刹那は性器を破壊された挙げ句、4本もの槍で股間から串刺しにされ残酷に殺されていった。

「よし、燃やせ　」

刹那の4本の槍が突き出た股間にバーナーの青い炎が当てられ炙られる。そして、4本の槍の切っ先が突き出た刹那の顔面もバーナーの炎で炙られる。それだけではない。刹那の二つの胸の膨らみも、下からバーナーで炙られ焼かれていた。

ジュボーー

刹那の顔が胸が性器が焼かれて黒焦げになっていく。刹那は絶命してからもまだその体を痛め付けられていた。
八千穂と柚希は震えあがり涙が止まらなかった。

7話　性器を破壊され泣きながら無様に許しを乞う刹那（後書き）

拷問の末、惨殺された刹那。
残る二人は恐怖に震えているが、次回は護国八千穂が容赦ない性器拷問を受け殺害される予定です。

ご期待ください。

8話　拷問の恐怖で命令されるがままに従順に自慰する八千穂（前書き）

今回から“白姫”護国八千穂が拷問されていきます。
まだあまり酷い描写はないと思いますが、気を付けて下さい。

8話　拷問の恐怖で命令されるがままに従順に自慰する八千穂

8話　拷問の恐怖で命令されるがままに従順に自慰する八千穂

目の前で刹那が残酷に殺され八千穂と柚希は声も出せず硬直していた。4本もの槍で串刺しにされ惨殺された刹那の顔面が胸が股間がバーナーの炎で焼かれている。

・・・もう許してあげて　・・・

刹那の焼かれている部分は黒焦げになっていく。刹那は絶命してからもまだ体を痛め付けられていた。さすがにそれで終わりかと思っていた二人だったが、刹那の四肢を引き伸ばしていたロープがギリギリと引かれていき、ついに刹那の四肢が引き千切れてしまった。両腕、両脚を引き千切られた刹那の胴体が地面に落ち、股間から口まで串刺しにされた刹那の体がゴロゴロと無惨に転がった。

「ツギハ、オマエダ」

「ひっ……」

小さく悲鳴を上げる八千穂の首輪に付けられたロープが引かれ、引き摺るように連れていかれる。以前拷問され殺害された八千穂はその時の恐怖と激痛が甦り、さらに目の前で惨殺された刹那の姿が頭に浮かび八千穂は膝がガクガク震えまともに歩く事も出来なかった。そして、八千穂は歩きながらシャーッと小便を漏らしていた。

恐怖に心を支配されてしまった八千穂は、もう白姫ではなくなっていた。八千穂は、弥生を椅子にして座る〝千餮王〟の前に引き出され縛られていたロープが解かれる。もし八千穂の心が折れていなければ、この千載一遇のチャンスを逃す事はなかっただろう。この至近距離で白姫の火力をもってすれば〝千餮王〟を倒す事が出来たかも知れないが、八千穂は恐怖で動けず震えているだけだった。

「お願いします　許して下さい　」

八千穂が涙を浮かべて訴えるが〝千餮王〟は一笑に付す。

「この期に及んで許されると思っているのか？　」

〝千餮王〟の怒気を含んだ言葉に八千穂は震え上がる。

「も、申し訳ありません　それなら、出来るだけ楽に殺して下さい　」

「ククク、それなら私の命令に逆らわず従えばその様に殺してやろう　」

今度は〝千餮王〟が笑いながら言う。

「はい、仰せのままに　」

八千穂が震える声で答えると、すぐにセーラー服とスカートを脱げと命令される。八千穂は震えながら服を脱いでいき下着姿になると、次の命令がくだされる。

「そのまま大きく脚を開いて自慰するのだ　」

「はい……　」

八千穂は素直に返事をすると大きく脚を開いた。そして、右手を股間に当て擦り始め、左手で胸を揉み始める。妖怪とはいえ大勢の目が向けられている前で自慰をしている自分に八千穂は何時もより興奮していた。暫くすると八千穂の息が荒くなってきた。

「おっ、おっ、おっ、おっ、おっ　」

八千穂の手の動きが速くなる。激しく股間を擦り下着の上から膣に指を突っ込んでいた。

「おっ、おっ、イキます　イクぅぅぅーー　」

八千穂は天を仰ぎ腰を突き出し体を硬直させ絶頂に達していた。

「ふむ、まあいい見せ物だった　よし、ではその下着を脱いで頭に被れ　股間の部分が鼻と口に当たるように被るのだ　」

八千穂は、はいと頷くと命令通り従順に自分の汚れた下着を頭に被った。漏らしたうえ、自分の粘液でぐっしょりと濡れた股間部を自分の鼻と口に当てる。小便の匂いと強烈な女の匂いが八千穂の鼻から入ってくる。

「よし、両手を上げ、脚を開くのだ　」

八千穂は万歳のように両手を頭上高く上げると脚を開いた。

「何をやっている　もっと大きく脚を開くのだ　」

「は、はい　申し訳ありません」

八千穂は怯えながら思い切り大きく脚を開く。

「よし、いいだろう　これからお前は鞭で打たれる　１０００発だその間そのままの姿勢で動かずにいろ　いいな」

「はい……」

〝千餐王〟は何処を鞭打つか言わなかったが、八千穂はそれが何処なのか分かっていた。

・・・私、性器を鞭で打たれる　それも１０００発も……　・・・

八千穂の前に一本鞭を持った河童が現れる。八千穂は鞭打たれるのに備えて下腹部に力を入れた。

・・・怖い、怖い、怖い、怖い、怖いぃぃ　・・・

八千穂にとって性器を鞭打たれるなど初めての経験だ。その八千穂の大きく開いた股の中心に鞭が叩き込まれた。

ビシィッ！

「あうぅぅぅーー」

八千穂は耐えた。拳を握りしめ必死に耐えた。しかし、続けて八千穂の性器が鞭打たれる。

ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!
ビシィッ!

「あうっ、あうっ、あうっ、あうっ、あうっ、あうぅぅぅーーー」

八千穂の瞳から大粒の涙が零れ、鞭打たれた八千穂の性器の尿道からはシャーッと小便がまた勢いよく噴き出していたが、１０００発にはまだ程遠い。八千穂は続けて性器を鞭打たれる。

ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!
ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!
ビシィッ!ビシィッ!

「あばばばばばばばばぁぁ　あっばぁぁぁぁぁぁーーーーー」

八千穂は白目を剥いて口から泡を吹き今にも失神しそうだったが、必死に意識を繋ぎ止めている。八千穂は生まれて初めて性器を鞭で打たれ、その体を引き裂くような激痛に膝がガクガクと震え、小便も漏らしながら耐えていた。性器を鞭で打たれるだけでこの激痛だ。これ以上、刹那がやられたような性器処刑をされたくない。その一心で耐えていた。

ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!
ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!ビシィッ!
ビシィッ!ビシィッ!

永遠とも思える八千穂の性器への鞭打ちがようやく残り１０発になり、鞭打ちはいったん休止され八千穂の腫れ上がり出血している性器に刹那同様塩が塗り込められる。

「ぴぎゃぁぁぁぁーーーー　」

八千穂は思わず性器を両手で押さえたくなるが強烈な自制心で何とか姿勢を崩さずにいた。

「うっ、うっ、うっ、うっ　」

泣きながら耐えている八千穂の塩を塗り込められた性器に再び鞭が叩き込まれる。

ビシィッ！ビシィッ！ビシィッ！ビシィッ！ビシィッ！ビシィッ！

「ひぎぃぃぃぃーーーーー　」

一際大きく絶叫した八千穂の性器への鞭打ちがようやく終了した。

「ほう、１０００発耐えるとはやるじゃないか　お前に敬意を表して、その体を飾ってやろう　」

八千穂はいきなり大勢の河童に取り押さえられ両腕を高手小手に縛りつけられる。

「そんなっ！　耐えたら楽に殺してくれるってっ！　」

「何を言っている　お前の体を飾ってやると言ったろう　ふはは、お前の性器を綺麗に飾り付けてやる　期待していろ　まあ、綺麗になるにはかなりの痛みが伴うがな　お前なら楽に耐えられるだろう　よし、お前ら準備しろ　」

八千穂は大きく開脚され逆さに吊られる。そして、ガムテープで口と目を塞がれる。

「飾りつけが終わったら見せてやる　それまで楽しみにしているんだな　」

開脚逆さ吊りにされて目と口を塞がれた八千穂の前に様々な太さのニードルが用意されていた。目を塞がれた八千穂は見る事は出来ないが、カチャカチャと耳に響く嫌な音に震え上がり泣き出していた。弥生と刹那の例から自分も同じ様に性器を破壊される。もうそれは逃れられない運命であると認めなければならなかった。

「ふぐ、ふぐ、ふぐうぅぅぅ　」

無様に泣いている八千穂の性器に痛みを倍増させる為、また塩が塗り込められていく。

「ふぐうぅぅぅ　」

八千穂が思わず悲鳴を上げるが、まず太く長いニードルが用意される。

「まず、人間の世界でクリスティナピアッシングと呼ばれているものを入れてやる　クリスティナという女が最初に入れたらしいなそれで、この名前になった　もっとも、これからお前の体に入れるのは私が改良したものだ　かなり痛いぞ　上手く入れられたら弥生の体にも入れてやろう　」

八千穂は〝千餐王〟が何を言っているのか理解出来なかったが、

人間の女性でそれを入れた事があるのなら自分も耐えられるだろうとホッとしていた。拷問ではなく本当に飾りらしい。しかし、その八千穂の考えは大いに間違っていた。性器ピアス事態が拷問に近く、それを〝千餐王〟がさらに痛みを与えるように考えているのだ。

八千穂はこの後、自分の考えの甘さに泣き叫ぶ事になる。

8話　拷問の恐怖で命令されるがままに従順に自慰する八千穂（後書き）

これから八千穂は性器にピアシングされていきますが勿論それだけでは終わりません。
期待してください。

9話　小陰唇にピアシングを施す為、短冊状に切断され号泣する八千穂（前書き）

今回、八千穂が拷問されていきます。刹那同様、塩酸で焼かれ小陰唇が切断されてしまいます。
酷い内容なので苦手な方は読まないようにして下さい。

9話　小陰唇にピアシングを施す為、短冊状に切断され号泣する八千穂

9話　小陰唇にピアシングを施す為、短冊状に切断され号泣する八千穂

八千穂の性器にピアスを装着する準備が整えられていく。

「クリスティナピアッシングと云うのは恥丘に入れるピアスだ　だがこれからお前が入れられるのは私が改良したものだ　これくらいでショック死してくれるなよ　」

「ふぐぅ、ふぐぅ、ふぐぅ　」

八千穂は嫌々というように首を振るが、長く太いニードルが用意される。

「よし、始めろ　」

ニードルの先端が八千穂の恥丘の脇ビキニラインに当てられる。そして、そのまま横に八千穂の恥骨の下に潜り込むように太いニードルが容赦なく突き刺されていく。

ズブッズブッズブッズブッ

「ほがあぁぁぁぁーーーーー！！　」

ぶっ、ぶぅぅっ

八千穂が絶叫し背中が海老のように反り返り、大きく放屁していた。悪臭が辺りに漂うが構わずニードルは突き刺されていき、八千穂の恥丘の反対側のビキニラインに突き抜けた。そして、ストレートバーベルタイプのピアスが装着される。次にまた少し下の位置にニードルが突き刺され恥骨の下を潜り抜けピアシングされる。結局、八千穂は恥丘の脇ビキニラインからクリスティナピアッシングを施され４本のバーベルピアスを入れられた。

「なかなか良いではないか　次はアウターラビアピアッシングだその名の通り大陰唇に入れるピアスだ　」

八千穂は左右の大陰唇にピアスを入れられていき、４個のピアスが入れられる。バーベル、リングタイプのピアスが入れられていった。

「さあ、次は本当の性器だ　まずインナーラビアピアッシング　小陰唇へのピアスだ　そのまま入れても詰まらないからな　小陰唇を短冊に切断して、切断した全てのビラビラにピアシングしてやる　」

八千穂は震えていた。刹那がやられた小陰唇の切断。それを自分もやられる。八千穂の小陰唇が摘まれ引き伸ばされる。そして、ハサミの刃の間に挟まれた。

「ふぅ、ふぅ、ふぅ、ふぅ　」

八千穂の呼吸が荒くなってくるが、躊躇なくハサミに力が込められる。

ジョキーン

「ふごぉぉぉぉーーーー」

絶叫する八千穂だが、当然これで終わりではない。小陰唇を短冊状に切断されるのだ。ハサミの位置がずらされ八千穂の小陰唇が切断されていく。

ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ

「ふんごぉぉぉぉーーーーーー！！」

ぶりっ、ぶりぶりぶりぃぃっ

八千穂は小陰唇を切断されていき絶叫しながら大便も漏らしていた。八千穂の肛門が大きく拡がり太い大便が排出され、ぼとぼとと地面に落ちた。

「汚い女だ　おい、こいつの腹も塩酸で焼いて二度と排泄が出来ないようにしろ」

怒気を含んだ〝千餐王〟の言葉で河童たちが慌ててイルリガートルを用意し中に塩酸を満たす。

・・・いやぁ、お願い　許してぇぇ　・・・

八千穂は小陰唇の痛みも忘れ激しく首を振るが、八千穂の肛門にイルリガートルからのびるゴム菅が挿入されていく。

「ふごぉ、ふごぉ、ふごぉぉぉぉーーーー　」

八千穂は体をよじり必死に自分の肛門からゴム菅を抜こうとするが、それは無理な事だった。そして、イルリガートルのコックが捻られゴム菅の中を塩酸が流れていく。

「ふんごぉぉぉーーーーーー！！！！　」

絶叫する八千穂の肛門から煙と悪臭が漂う。八千穂も刹那同様、腹の中を塩酸で焼かれ始めた。

・・・あづいぃぃ　ぐるじいぃぃ　だじげでぇぇぇ　・・・

八千穂の頭は激痛で真っ白になり、もう何も考えられなくなっていた。その八千穂のもう片方の小陰唇も短冊状に切断されていく。

ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ、ジョキ

「ふんごぉぉぉーーーーーー！！　」

八千穂の短冊状に切断された小陰唇の一つ一つのビラビラにニードルで穴が空けられピアスが入れられる。八千穂は肛門から塩酸を注入されながらピアスを入れられていた。

「次はクリトリスフードピアッシングの中でも最も過酷なトライアングルピアッシングだ　お前は人間の癖に知識がないようだから教えてやる　クリトリス包皮を貫いてから、クリトリスの根本を貫通して反対側の包皮も貫通する　３ヶ所を貫通するのでトライアングルピアッシングと呼ぶらしいぞ　」

しかし、八千穂はもう〝千餐王〟の言葉が耳に入っていなかった。

「失礼な女だな　おい、こいつの子宮と膀胱も焼いてやれ　」

すぐに別のイルリガートルが二基用意され塩酸が満たされるとゴム菅が八千穂の尿道と子宮口に挿入され、塩酸が注入されていく。

「ふごっ、ふごっ、ふんごぉぉぉーーーーーー！！　」

八千穂の子宮と膀胱も塩酸で溶かされていくが、それと並行して八千穂の性器へのピアッシングも行われている。八千穂はトライアングルピアッシングを施されピアスを入れられていた。さらにクリトリスピアッシングも施術され、八千穂のクリトリスにリングピアスが入れられる。

「まだ飾りつけは終わらないぞ　プリンセスアルバーティナピアッシング　これはかなり珍しいピアッシングらしいぞ　そんなピアスを入れて貰えて嬉しいだろう　尿道と膣を使うからな　塩酸の注入が終わるまで待ってやる　」

八千穂は意識を失ったのかぐったりと吊られたまま揺れていた。八千穂の股間の穴には3本のゴム菅が挿入され塩酸が注入されている。イルリガートルには3分の1の塩酸がまだ残っていた。それが全て注入されるまで、まだ時間がかかりそうだった。そこで八千穂の胸にもピアッシングが施される事になった。

「ニップルピアッシングだ　ホリゾンタルとバーティカル　両方入れてやる　」

八千穂の体はもう人間の女性として扱われず、モノとして扱われていた。何の感情もなく八千穂の形の良い胸にニードルがズブズブと突き刺されピアスが入れられていく。八千穂の乳首にバーベルとリングが入れられ、さらに縦にも埋め込まれた。それだけではない。八千穂の胸の膨らみの根本にも太く長いニードルが突き刺され、なんと二つの膨らみを横に貫通しピアスが入れられる。八千穂が胸にもピアッシングをされているうちに、イルリガートルの塩酸の注入が終了し、八千穂の子宮と膀胱には塩酸が充満し少しずつ溶かしていく。八千穂の苦痛は終わることはない。八千穂は次のプリンセスアルバーティナピアッシングを施される為、尿道と膣からゴム菅が抜かれる。すると、尿道と膣からどろどろに溶けた八千穂の膀胱と子宮が血と混じった赤い液体になって噴き出した。もう八千穂の命も残り僅かになっていた。しかし、この程度の痛みを与えるだけでは〝千餐王〟は満足しない。さらに激しい苦痛を八千穂に与えるつもりだった。

「プリンセスアルバーティナピアッシングを3本入れろ」

〝千餐王〟の命令で八千穂の命が尽きる前に痛め付ける為、迅速に用意される。プリンセスアルバーティナピアッシングは、膣から尿道にピアスを入れる珍しいピアスである。八千穂の膣が拡げられニードルが尿道に向けて膣壁のちょうどバルトリン腺が口を開けている辺りに突き刺される。そのままニードルは深く突き刺され、その先端を尿道から現した。八千穂は膣と尿道を貫通するピアスも入れられてしまう。それも3本も……。

「次はフォルシェピアッシングだ　これも3本入れてやろうか　嬉しくて死にそうか」

八千穂はもう死の川を渡り始めていた。八千穂はもう自分の下腹

部がどうなっているのか、自分でも分からなかった。発狂してしまった刹那の苦しみが良く分かる。多分自分ももうすぐ発狂する。発狂しなければとても耐えられない地獄の苦痛だった。そんな八千穂の頭に最後に浮かんだのが、性器を破壊され潮を吹いて絶頂を迎えている自分の姿だった。

9話　小陰唇にピアシングを施す為、短冊状に切断され号泣する八千穂（後書き）

子宮や膀胱を溶かされ小陰唇を切断され陰核にピアシングされてしまった八千穂。次回、残された膣も破壊され八千穂は惨めに発狂し絶命します。
八千穂がどれだけ無様に死んでいくのか、期待してください。

１０話　四肢を切断され首を吊られ回転ノコギリで性器を切断され惨めに絶命する八千穂（前書き）

今回、八千穂が容赦なく残酷に処刑されます。
苦手な方はスルーして下さい。

１０話　四肢を切断され首を吊られ回転ノコギリで性器を切断され惨めに絶命する八千穂

１０話　四肢を切断され首を吊られ回転ノコギリで性器を切断され惨めに絶命する八千穂

八千穂はまだ性器ピアッシングを続けられていた。今、八千穂の性器に行われているのはフォルシェピアッシングだ。これは膣から会陰へ抜けるピアッシングだ。会陰が小さい女の場合は肛門に抜けるピアスを入れられる女もいるが、八千穂は膣と会陰に入れられる事になった。すぐにニードルが膣内から突き刺され、プツッと会陰に抜ける。八千穂はここにも3本ピアスを入れられた。〝千餐王〟は八千穂の目に貼っていたガムテープをバリバリと剥がすと、開脚逆さ吊りにされている八千穂の股間に鏡を当て八千穂自身に確認させる。自分のピアスで飾り付けられた性器を見て八千穂が思ったのは、もう海もプールも温泉も行けないというまるで見当違いの能天気なものだった。これから殺されてしまう八千穂に海やプールなど関係ない。それは死へのカウントダウンが始まっている八千穂自身にも分かっている事であったが、そんな時でも頭に浮かんでくるのが楽しかった思い出だった。

「ふぐ、ふぐ、ふぐ、ふぐ、ふぐ　」

八千穂は号泣していた。すると、八千穂の口を塞いでいたガムテープも剥がされる。

「もお殺してください　体の中が熱くて痛くて苦しいです　早く殺

して、お願いします」

「ほお、まだ喋れるのか　では、もっと痛め付けるとするか」

「ひぃぃっ　もお殺してぇぇぇ」

しかし、八千穂は処刑台の上に固定される。頭、首、胸、胴がカチャカチャと金具で締め付けられる。そして、手足は押さえ付けられた。

「これ以上まだ私を痛め付けるの　もう早く殺してくださいっ」

八千穂は泣きながら懇願するが、八千穂の膣にフライパンの焦げ付き等を削り落とす金たわしが挿入されていく。膣一杯に詰め込まれた金たわしはそのままに、ドリルの代わりに性具を付けられた電動ドリルが八千穂の膣に無理矢理挿入されていく。そして、スイッチが入れられ性具が高速で回転する。

「ひぎぃぃぃぃーーーー」

八千穂の悲痛な叫び声が響き渡り、膣からは金たわしで削り取られた八千穂の膣壁が肉片となり鮮血と共に飛び散った。八千穂の膣はズタズタにされていく。

「ひぃぃ　もう嫌だぁぁぁ　誰かぁぁ助けてぇぇぇ」

泣きながら救いを求める八千穂の腕と脚の付け根にノコギリの刃が当てられ、ノコギリは押さえ付けられた八千穂の腕を脚を一斉に引き始めた。

「いだあぁぁぁ　いだいぃぃぃーーー！！　だじげでえぇぇぇ　」

余りにも残酷な目にあっている八千穂であるが、ノコギリは木の枝でも切るように八千穂の二の腕と太ももを容赦なく引いていく。

「いだい、いだい、いだいぃぃぃーーーー！！　」

「うるさい女だ　喉を焼いてやれ　」

泣き喚く八千穂の頭の下の処刑台がガコンと外れ、八千穂の頭が倒される。八千穂の口から喉が一直線にされた。そして、真っ赤に焼けた鉄の棒が八千穂の顔に近付いてくる。八千穂の口に閉じられないように開口器が装着された。八千穂は手足をノコギリで切断されながら喉も焼かれようとしていた。

「おがあぁぁぁーーー　」

ジュワァァーー

八千穂の喉奥深くまで焼けた鉄の棒は突き入れられていき、八千穂は胃まで焼かれた。八千穂は体をビクンビクンと大きく痙攣しだした。

「急げっ　こいつが生きているうちに、もっと痛め付けるのだ　」

〝千餐王〟の言葉でノコギリを引くスピードが加速され、八千穂の四肢が切断されゴトンと転がった。

「面白い趣向を思い付いた　」

部下に指示を出した〝千餐王〟は楽しそうに八千穂の姿を眺めている。八千穂は拘束していた金具を外され、口から鉄の棒も抜かれ、膣から金たわしも取り除かれた。その間に八千穂の切断された手足が一本一本コーティング剤で固められていく。そして、手足の失くなった八千穂の体がごろんとうつ伏せにされると尻が拡げられ、八千穂の肛門に八千穂の切断され固められた左腕が指先から挿入され左腕全て押し込まれてしまう。

「ごがあぁぁぁーーー」

自分の腕で内臓を突き破られ八千穂は絶叫するが、次に仰向けにされた八千穂の尿道がメスで切り裂かれ、八千穂の尿道には八千穂の右腕が指先から突き入れられ右腕も全て尿道に入れられ膀胱を串刺しにした。

「ひぎぃぃぃ　だじげで」

八千穂の悲鳴に力が失くなってくる。そして、八千穂の膣には八千穂の右脚が爪先から突き入れられた。八千穂の膣はビリビリと裂け血が溢れ子宮は串刺しにされる。

「いだい　ぐるちい　もお、じぬ　はひゃひや」

自分の腕や脚で性器や肛門から串刺しにされ内臓を破壊された八千穂は、もう正気ではなくなっていた。ここまで凄まじい処刑をされ八千穂は無様に発狂してしまった。しかし、それでもまだ微かに息をしていた。

「発狂したとはいえ、まだ生きているとは嬉しいぞ」

今度は八千穂の上顎と下顎が持たれ思い切り拡げられる。八千穂の小さな口が裂け、顎が外された。そこへ八千穂の左脚が爪先から突き入れられていく。八千穂の食道が裂け胃も貫通し串刺しにされた。

柚希は処刑されていく八千穂の凄まじい姿に小便だけでなく大便もぶりぶりと漏らしながら、ガタガタと震えていた。柚希の白い下着の股間部がこんもりと盛り上がり悪臭を放っている。

「おい、その女の下着脱がせて頭に被らせろ」

すぐに柚希の下着が脱がされると、たっぷりと大便がついたまま柚希の頭に被せられ、下着の股間部は柚希の鼻と口に押し付けられた。柚希は自分の大便が鼻と口に入り込み味わうはめになる。

「そのまま見ているのも退屈であろう　この性具を入れてやろう人間の性具を元に改良した物だ」

〝千餐王〟は自慢気に話し始める。性具の直径は１００ミリあり、その表面には無数の穴が空いていた。

「この性具は当然ながら快感を得る物ではない　人間の女の性器を痛めつけ破壊する物だ　この側面の穴からは針が飛び出し膣をズタズタにするのと同時に塩酸も吹き出し膣を溶かす　先端からも太いニードルが突きだし子宮を貫通する　更にこれは飛び出ると大きく羽根が拡がり回転する　これで子宮を串刺しにし開いた羽根で子宮をズタズタに破壊するのだ」

その説明で柚希は恐怖に震えた。とうとう自分も性器を破壊されてしまう。どれ程の激痛なのか。目の前で性器を破壊され発狂した

刹那と八千穂。柚希は自分の運命も二人同様悲惨なものになると感じていた。

自分の手足で串刺しにされた八千穂のビクビク震える体をさらに痛めつける為、首にロープが巻かれ吊り下げられていく。八千穂はぶらーんと首吊りにされた。そして、八千穂の体の下に回転ノコギリが設置される。それは、上手く八千穂の性器を切断出来るように位置を細かく修正され電源が入れられる。

キュイーン

回転ノコギリの刃が高速で回転を始めた。そこへ向かって四肢を切断された哀れな八千穂の体が下ろされていく。もう八千穂は息をしているというだけで発狂してしまい自分の意識は消滅してしまっているが、それでも最後の時は分かるのか焦点の合っていない両目から大量の涙を流していた。

「この女の性器切断が始まったら、二つの胸も切除してやれ　そっちの女の膣にも股を開かせて早く性具を入れるのだ　」

八千穂の体はもうかなり下がり、回転ノコギリに触れようとしていた。そして、ついに八千穂の性器の割れ目に回転ノコギリの刃が食い込む。

ギュバァァーー

八千穂の割れ目が切り裂かれ血と肉片が飛び散る。同時に八千穂の左右の乳首にカッターが当てられ、ズバッと切除された。さらに八千穂の二つの胸の膨らみの根本も巨大な枝切り鋏の刃で挟まれる。

ジャキーン！！

ボトッ、ボトッ

八千穂の胸の膨らみが切断され、地面に落ち無惨に潰れた。八千穂の体はもう恥丘まで切断されていたが、まだ回転ノコギリの上に下ろされていく。

柚希は押さえ付けられ股を開かされ、性器破壊用の性具を挿入されようとしていた。

「嫌ぁぁぁ　お願い　許してぇぇぇ」

泣き叫ぶ柚希の目の前で八千穂の体が頭まで切断され、真っ二つに切断された八千穂の体が地面にごろんと転がった。八千穂はもう何も言わぬ物体となっていた。切断された八千穂の頭からは脳がどろんと流れ出していた。

１０話　四肢を切断され首を吊られ回転ノコギリで性器を切断され惨めに絶命する八千穂（後書き）

ついに八千穂も処刑されてしまい、残る柚希にも最後の時が迫ってきていた。

次回は柚希が泣き叫びながら破壊されていきます。

11話　泣きながら許しを乞うが、ついに性器を破壊されてしまう柚希（前書き）

今回でＲ１８掲載のエピソードは最終話となります。
ご了承ください。

１１話　泣きながら許しを乞うが、ついに性器を破壊されてしまう柚希

１１話　泣きながら許しを乞うが、ついに性器を破壊されてしまう柚希

柚希は必死に懇願していた。〝千餐王〟の前で土下座して地面に顔面をこすりつけていた。

「そんなの入れる前に私のマンコ、鞭で打った方が楽しいですよ私、鞭でマンコ打たれるの初めてだから……　お、おっぱいも打つのも楽しいですよ、きっと　」

柚希は自分の性器破壊を少しでも遅らせようと必死だった。遅らせたところでどうなるものではないが、それでも柚希は自分の性器が壊される事を少しでも遅らせたかったのだ。

「八千穂が１０００発なら、私はもっと頑張れます　好きなだけマンコを鞭で打っていいですから　それを入れるのはやめて下さい　」

「おもしろい　それなら、両手を上げ脚を大きく開くのだ　」

柚希は〝千餐王〟の言われるままの姿勢をとった。鉄球の修行である程度の耐性はある。木刀で性器を打たれた時も何とか耐えられた。鞭で打たれても大丈夫だよと柚希は自分を励ましていた。しかし、柚希は鞭を甘くみていた。鞭は本来、処刑に使用されていた道具だ。人を殺す事が出来る道具なのである。

・・・弥生さんは、こんな事も想定して修行していたんだね　やっぱり弥生さんは凄い　・・・

鉄球を性器にぶつける修行をしていた弥生を思い出し、改めて弥生の凄さを認識した柚希だったが、弥生の本当の理由は別の所にある事には気付いていなかった。惨殺された八千穂は気付いたが、あれは修行ではなく弥生の自慰だったのである。柚希が注意深く観察していれば、弥生の下着の股間が激しく濡れている事に気が付いただろうが、残念ながら柚希はそこまで気が付いていなかった。

「もっと腰を前に突き出せ　お前の性器を鞭で打ちやすいようにするのだ　」

柚希が言われた通り腰を前に突き出すと鋭い風切り音が響いた。

ヒュンッ！

ビシィィィ！！

「あっ、びゃあぁぁぁぁーーーー　」

柚希のミニスカートがぶわっと捲れ割れ目にぴったりと鞭が入り、柚希の性器の一番柔らかい部分に鞭が叩き込まれた。

「あうっ、あうっ、あうっ、あうっ　」

頭上に上げた手を握りしめ歯を食い縛り涙を流し必死に耐える柚希の性器に連続で鞭が叩き込まれる。

ビシッ、ビシッ、ビシッ、ビシッ、ビシッ、ビシッ、ビシッ、ビシッ、ビシィィィ！

「あっ、びゃあぁぁぁぁぁーーーー　いだい、いだい、いだいよぉぉぉーーーー」

柚希は自分の股間の中心を襲う、性器を抉り取られるような激痛に耐える事が出来ず、両手で股間を押さえると地面に転がりのたうちまわった。

「なんだ、こいつは　全然ダメではないか　もういい　こいつの性器を破壊しろ」

のたうちまわる柚希の体が押さえ付けられ、股間を押さえる柚希の両手が離される。そして、腰が持たれ、脚を大きく広げられミニスカートが捲られた。柚希の性器が、クパァと開かれ膣に処刑具の先端が当てられる。そして、無理矢理柚希の膣にドンッと蹴り込まれた。

ビリビリビリィィィ！

「いだぁぁぁ　いだいぃぃぃぃーーーー」

柚希の膣がビリビリと裂け、処刑具は根本まで押し込まれていた。柚希の、直径１００ミリの処刑具が押し込まれ膣から血が滲んでいるが、柚希はそのまま立たされ脚を開かされミニスカートが捲られる。

「最後に何か言っておく事はあるか」

「お願いします　許してください　」

「それは無理だな　」

”千餐王　”は冷たく言い放つと処刑具のスイッチをパチンと入れた。

「あっ、ぴゃぁぁぁぁーーーーーーー！！！　」

ビシャァァーーー

柚希の絶叫が響き、膣から血が噴水のように噴き出した。柚希の膣と子宮は一瞬で破壊されていた。

「いだぁぁぁ　いだいぃぃぃーーーー　たずげでぇぇ　もお、ゆるじでぇぇぇーーーー　あばばばばば　」

膣と子宮を同時に破壊されて柚希は半狂乱になっていた。その柚希の体が地面に仰向けにされ両足が頭の横まで上げられ押さえ付けられる。柚希は血塗れの性器を無防備に上を向けた格好で押さえ付けられていた。そこへ、ハサミを持った河童が三体も近付いてくる。

「お前の仲間が全員やられた事だ　お前だけやらないのは可哀想だろう　」

柚希の左右の小陰唇がびろーんと引き伸ばされる。二体の河童がそれぞれ左右の小陰唇をハサミで挟み準備する。もう一人の河童は柚希の肛門にハサミを入れ括約筋をハサミで挟んだ。柚希は自分の膣と子宮が破壊された激痛で今自分が何をされているのか分かっていなかった。

「切断しろ　」

冷たく残忍な声が響く。そして、一斉にハサミが閉じられた。

ジャキーン、ジャキーン、ジャキーン！

「あびゃびゃびゃびゃあぁぁぁぁーーーー　あっびゃあぁぁぁぁーーーー　」

柚希が惨めに泣き叫ぶ。

「いだぁぁぁぁーー　マンコ、いだいぃぃぃーーーー！　」

しかし、柚希がどんなに泣き叫ぼうが小陰唇と肛門が切断されていく。

ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキッ、ジョキィィィ

「あぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ、あぶぅぅぅぅぅーーー　」

柚希は口からブクブクと泡を吹いていた。小陰唇短冊切り。これで、四姫全員が小陰唇を切断されたことになる。過去に妖怪に捕らわれ拷問されて殺された四姫もいたが、四人全員がここまで徹底的に性器を破壊されてしまったのは初めての事だった。その柚希の横に次の拷問具が用意される。それは鋭い鋭角の三角木馬だった。だが、これも普通の三角木馬ではない。頂点の鋭角の部分が鉄板になっている。そして、この三角木馬は内部が炉になっており火がおこされていた。つまり、この三角木馬は性器を裂くだけでなく焼いて

もいくのだ。柚希は膣から処刑具を抜かれミニスカートを脱がされ下半身を剥き出しにされ、両腕は背中に回され縛られる。そして、大きく脚を開かされ三角木馬に跨がらせられた。三角木馬の頂点の鉄板は焼けて真っ赤になっていた。

ジュウウウーーーーー

「あづうぅぅぅ　あづいいいいーーー」

悲鳴を上げる柚希の性器の肉が焼ける音と匂いと煙があがる。その柚希の足に鉄球が付けられた。片足に３０キロの鉄球だ。柚希の性器にさらに焼けた鉄板が食い込む。

「いだぁぁぁぁーーーー　だじげでぇぇぇーーー　じぬうぅぅぅーーー」

「なかなかいい声で泣くな　もっと鉄球をぶら下げろ」

すぐに柚希の足に追加の鉄球が下げられる。また、３０キロの鉄球が追加され柚希は片足に６０キロ。両足で計１２０キロもの鉄球をぶら下げられ両足はピーンとのびきり動かす事も出来ない。柚希の性器にさらに激しく三角木馬の焼けた鋭角が食い込んでいく。

「あっびゃあぁぁぁぁーーーー　いだいいいいーーーーー　マンコ潰れるうぅぅーーー　もお、ゆるじでぇぇぇーーーー」

「ククク、もっとぶら下げろ」

更に柚希の足に鉄球が追加される。もう柚希の脚は関節も延びきり千切れてしまいそうだった。そして……。

プチッ

小さな音が響き柚希のクリトリスが潰れた。

「あっぴゃあぁぁぁぁーーーーー　あぴゃぴゃぴゃぴゃ　」

クリトリスが潰された柚希は天を仰いで絶叫する。柚希は口から泡を吹いて体を痙攣させているが、さらに炉の中に固形燃料が投げ込まれ火の勢いが増し、柚希の股間を焼いていく。

ジュバァァーーー

柚希の股間はもう炭のように黒焦げになっていた。柚希も、刹那と八千穂同様性器を破壊され、この後残酷に処刑されていく運命だったのだが……。

１１話　泣きながら許しを乞うが、ついに性器を破壊されてしまう柚希（後書き）

ここでＲ１８掲載分は終了となります。
この後の続きが気になる方は、本編の方で掲載していく予定ですので、お手数ですがそちらを読んで頂ければ幸いです。

番外編　度重なる拷問で性器を破壊され無様に絶命する柚希（前書き）

本編では救世主が現れ救い出された柚希ですが、その救世主が現れなかった場合の物語です。
例によって柚希が酷い目にあう内容なので、苦手な方は読まないようにして下さい。

番外編　度重なる拷問で性器を破壊され無様に絶命する柚希

番外編　度重なる拷問で性器を破壊され無様に絶命する柚希

子宮と膣をズタズタに破壊された柚希は、その後も三角木馬に跨がらせられ今度は外性器を責められていた。〝千餐王〟は柚希の内性器を破壊しただけではあきたらず、柚希の性器を完全に破壊しようとしていた。

・・・ククク、この人間の女というのは性器を破壊すると、尻子玉の力が上がるようだ　この女も徹底的に痛め付けて破壊してやる・・・

すでに子宮は切り裂かれ、膣も無数の針で突き刺された上、塩酸で溶かされている。小陰唇は切除されてしまい、クリトリスは潰された。そして、今、三角木馬型の炉で膣前庭窟を焼かれていた。

「だじげでえぇぇぇーーー」

柚希は助けを願うが、この異界に柚希を助ける者が現れる奇跡など皆無といってよかった。性器を破壊され発狂し惨殺された刹那と八千穂のように柚希もこのまま責められ続け発狂して絶命するのがもう逃れようのない運命だといえた。

・・・弥生さん、助けてよお　・・・

肘と膝から四肢を切断され〝千餮王〟の椅子になっている弥生に救いを求める柚希であるが、弥生は四つん這いで椅子になった状態で口と性器に性具を入れられ激しく責められガクガクする手足を支え、椅子になる事に必死になっており、他の事を考える余裕などないようだったが、柚希が弥生に救いの目を向けているのに気付いた〝千餮王〟は、弥生から腰を上げると部下に何かを命じていた。

しばらくすると部下の一人が直径１０センチ、長さ2メートルはある木製の杭を2本持ってくる。そして、その杭を間隔をあけて岩の上に、杭の尖った先端を上に向けて固定する。柚希は嫌な予感がしていた。〝千餮王〟は杭の設置が終わると、弥生の腰を両側から掴み軽々と持ち上げた。そして、そのまま杭の上に弥生の体を持ってくる。

「お前にも同じ事をやってやるから、しっかりと見ておけ」

〝千餮王〟は杭の先端尖った頂点を慎重に弥生の膣口に合わせていた。そこまでする前に柚希は弥生が何をされるのか理解していた。

・・・やっぱり、あの杭で弥生さんを膣から串刺しにするつもりなんだ　その後、私も同じ事をされる　・・・

ズブッ！

弥生の膣口に杭の先端が入る。そして、弥生の肛門にももう1本の杭の先端が入っていた。

「この女は人間でいう変態だからな　こういう事をされると喜ぶのだよ　よく見ていろっ」

千餮王は弥生の腰を持ったまま、弥生の身体を上下に動かす。し

ばらくすると弥生は無様に声を上げ始めた。

「おっ、おっ、おっ、おっ、おっ、おっ、おっ　」

千餐王は、さらに激しく弥生の腰を動かしていく。弥生の膣から粘液が溢れ、肛門からは腸液が垂れていた。

「いぐっ、いぐっ、いぐっ、いぐっ、いぐうぅぅぅーーっ　」

・・・や、弥生さん　あの真面目な弥生さんが、こんな目にあって声を上げさせられるなんて、酷いよ　やっぱり、コイツら人間じゃないから容赦がないんだ　・・・

柚希は、無理矢理イカされる弥生の哀れな姿に涙が出てきていた。弥生は、柚希の前でもうイク寸前のようにガクガク身体を震わせ声を上げている。そして……。

「もう、らめえぇぇぇーーっ、いぐうぅぅぅーーっ　」

プッシャァァーーーッ

弥生が潮を吹いてイッた瞬間、千餐王は弥生の腰を力任せに引き降ろしていた。

「おぼうぉぉぉぉーーーっ　」

弥生の口と背中から血塗れの杭の先端が突き出ていた。しばらくはビクンビクンと痙攣していた弥生の身体は、そのうちに動かなくなっていった。弥生は絶頂を迎えた瞬間、串刺しにされ惨殺された。柚希は、弥生の最後を目の当たりに見て、次にくる自分の姿を想像

し息が止まりそうだった。もう、刹那も八千穂も、そして今、弥生も殺された。残っているのは自分だけ、次は自分が残酷に殺される番だ。柚希は、恐怖と絶望で号泣していたが、妖怪たちは柚希を三角木馬から降ろし、処刑の準備にかかる。串刺しにした杭から弥生の身体が抜かれ投げ捨てられると、肛門に突き刺さる杭は撤去された。

「すぐに死なれては尻子玉が成長しないからな　弥生みたいに一気には殺さず、じわじわと苦痛を与えて殺してやる　おい、あの薬も射っておけ　」

部下の妖怪は、千餐王の命令で柚希の太ももに注射を射ち薬剤をデューッと注入する。

「楽には死ねないようにしておいた　お前には死の寸前まで苦しんで貰わなければならないからな　」

柚希は、これから自分に行われる行為に激しい恐怖を感じていた。身体がブルブル震えて止まらない。

「やめて、許して……　お願いします、せめて楽に殺して下さい　」

柚希は必死に懇願するが、もとより柚希に苦痛を与えて尻子玉を強化するのが目的である。相手が人間ならともかく、妖怪がそんな事に気を遣うなど有り得なかった。柚希の両脚は、三角木馬で長時間錘を下げられ、まともに歩く事も出来なかったが、逃亡や抵抗防止の為、巨大なハンマーで骨を砕かれていく。

「あぎぃぃぃぃーーーっ　」

絶叫する柚希の両脚の骨が、粉々に砕かれていた。

「よし、串刺しにしろ　ゆっくりと苦痛を味わうようにしろ　」

柚希は先刻、弥生を串刺しにした杭の上にロープで持ち上げられる。そして、徐々に降ろされていった。妖怪たちは、慎重に杭の先端を柚希の膣口に合わせていく。

ヌプッ

軽く先端を膣に入れると、そこで一旦停止する。そして、柚希の骨を砕かれた脚に再び錘が装着された。１０キロ、２０キロ、３０キロ、片足に３０キロの錘を装着され、柚希の両脚がピインと伸びきる。

「よし、ロープを弛めろ　」

柚希を吊り下げていたロープが弛められた瞬間、柚希の身体は一気に下がり、杭が柚希の膣を裂き、子宮を串刺しにしていく。

ズボゥウッ

「あびゃあぁぁぁぁーーーっ　ゆるじでぇぇぇっ　ゆるじでぐだぢゃいぃぃぃっ　」

柚希は、少しずつ自分の中に食い込んでくる太い杭に体を貫かれていく。おそらく、もう胃の辺りまで貫かれているのだろう。柚希は、ゴボッと口から血を吐き出した。

「そろそろ、顔を上に向けて固定しろ　」

千餐王が残酷に笑いながら命令する。部下の妖怪は柚希の頭を乱暴に掴むと、体を貫通される激痛で涙と鼻水を流し血を吐きながら号泣している柚希の顔を上へ向けると厳重に固定していく。柚希は自分の顔が上を向けられた意味を悟り、絶望で顔が歪んでいた。

「いいだろう、もう一気に串刺しにしろ　」

柚希はビクッと体を震わせるが、妖怪たちは一気に柚希の体を串刺しにしていく。

「おごごごごごごっっ　」

ドプッ、ドプッ、ドプッ

柚希は口から大量に血を噴き出し、見開いた眼からは大量の涙が溢れていた。そして、ついに柚希の口から血塗れの杭の先端が飛び出す。ここで柚希にまた注射器で薬剤が注入される。

「ふふふ、まだ簡単に死んで貰う訳にはいかないからな　苦しんで貰うぞ　」

性器から口まで完全に串刺しにされた柚希に、ノコギリを手にした妖怪が４体現れ柚希の腕の拘束を解き手足をそれぞれ持つとノコギリの刃を当てた。そして、それぞれノコギリを引きだす。

「おごっ、おごっ、おごっ、おごっ　」

柚希は、串刺しにされたまま四肢を切断されていく。柚希は苦悶の表情で苦しみながら四肢をノコギリで引かれ、全て切断されてし

まった。哀れに胴体と頭だけになった柚希は、それでもまだ生かされていた。

「弥生にもやった火炙りにしてやろう　長く苦しむ事が出来るぞ尻子玉も成長するな」

四肢を切断され串刺しにされている柚希の下に薪が大量に積み上げられ点火された。忽ち大きな炎が柚希を下から炙り始める。そして、薪が追加され、さらに大きくなった炎は柚希の股間を直接焼き始めた。ジリジリと焼かれる柚希の性器は燃えて黒焦げになっていく。柚希の性器が燃える異臭も漂っていた。柚希の股間から下腹部にかけては全て焼け爛れ黒焦げになっていた。そして、柚希は哀れに苦しみ抜いて絶命していた。千餐王は柚希の肛門に腕を突き刺し尻子玉を抜くと、それを満足そうに口に入れた。

＊　＊　＊

それからは、弥生に加え、刹那、八千穂、柚希も毎日アイテムで復活させられると、まず四肢を切断され、それから残酷に性器を破壊され絶命させられた。そして、尻子玉を抜かれるという行為を繰り返され、彼女たちの精神は崩壊していった。

最近ではアイテムで復活しても、もう目は虚ろで感情がないように性器処刑で泣き叫ぶ以外の声は出さなくなっていた。ただ毎日、性器を処刑され絶命する。それだけの道具になってしまっていた。

結局それは、千餐王が異界を統一する為に決起し、力及ばず橋姫率いる鬼の軍団に敗れ、惨殺されるまで続いていた。千餐王亡き後、弥生たちは復活させられる事もなく。弥生たちの遺体はグツグツ燃えたぎる溶岩の中に廃棄され、骨も残さず消滅していた。こうして

彼女たちは哀れにも人知れず消えていったのである。人間界で、彼女たちの消息を追っていた人達の記憶からも消えていき、そのうちに彼女たちの存在は風化した石のように、すっかり消えていた……。

番外編　度重なる拷問で性器を破壊され無様に絶命する柚希（後書き）

本編とは全然異なるバッドなエンディングですが、こういう未来もあったのかも知れません。
本編では弥生の協力で異界を統一した千餐王も、大望を遂げる事が出来ず惨殺されます。未来とは、ほんの少しの事で大きく変わるのでしょうね。その為にも、今を大切にして生きていきたいものです。

この作品の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
https://novel18.syosetu.com/n9204jk/

性器処刑され惨殺されるヒロインたち

2025年3月15日01時18分発行